

申込書式8-1

自己評価表 1

*この自己評価表は、申込時においては受講希望者の修得目標点検と、講師が申込時評価の集計結果から受講希望者の理解度を点検し、より充実した研修内容とするために提出していただくものです。**全項目の申込時評価(薄黄色の欄)を記入**してください。(最下段に記入例あり)
 *申込時は**氏名を記入し、受講番号欄は空白のまま**でご提出ください。
 *全項目の申込時評価を記入した後、**コピーを取り、コピーをホチキス止めて提出**してください。
 *この自己評価表は、受講決定後は**受講中と受講3か月後**に使用しますので、**原本はお手元に保管**してください。

氏名

評価は自己評価とし、4段階評価で各項目ごとに該当する番号を記入してください。
【選択肢 4.できる 3.おおむねできる 2.ほとんどできない 1.全くできない】

	1	2	3	4	5
項目	主任介護支援専門員の役割と視点	ケアマネジメントの実践における倫理的な課題に対する支援	ターミナルケア	人材育成及び業務管理	運営管理におけるリスクマネジメント
①	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等における主任介護支援専門員の役割における共通点と相違点を説明できる。	自らの振り返りを通して、自己の倫理的課題について改善策を判断できる。	ターミナルケアにおける必要な全人的注視点を基に指導できる。	地域や事業所内における介護支援専門員の人材育成の課題と対応策について説明できる。	ケアマネジメントを行う上で、事業所内で発生しうるリスクを予測し、運営管理の必要性を説明できる。
②	介護支援専門員に対する指導・支援の視点について説明できる。	具体例を交えながら、主任介護支援専門員が備えるべき倫理について説明できる。	居宅及び施設におけるターミナルケアの課題や必要な視点を指導できる。	地域や事業所内における介護支援専門員の人材育成に関し、効果的な取り組みおよび方法(研修計画の作成、OJT、OFF-JT、事例検討会等)により実施できる。	ヒヤリハットの事例に基づき、事業所内のリスクを軽減していく仕組みづくりの重要性について説明できる。
③	地域包括ケアシステムの構築に向けての、地域づくりの視点について説明できる。	介護支援専門員に対して、ケアマネジメントを行う際の倫理的課題と対応方法について説明できる。	利用者及びその家族等に対する介護支援専門員としての適切な支援方法の指導ができる。	地域において人材育成を行うに当たって必要なネットワークの構築を実施できる。	地域や事業所におけるリスク軽減のための仕組みや体制を構築する際のポイントを説明できる。
④	セルフケア・セルフマネジメントに関する地域住民の意識づくりの視点を説明できる。	介護支援専門員が、自らの倫理的判断力を高められるような振り返りの支援を実施できる。	看護サービス等を活用する際の視点や多職種との連携方法・協働のポイントの指導ができる。	事業所内における介護支援専門員に対する業務管理の意義・方法について説明できる。	介護支援専門員に課せられている秘密保持義務の規定について説明できる。
⑤	介護保険制度や他制度について、最新の動向について説明できる。	研修会や事例検討会における倫理的な配慮について説明できる。		事業所内における介護支援専門員に対する業務管理上の課題を踏まえ、対応策について説明できる。	個人情報の取り扱いに関わる仕組みの重要性を説明でき、その体制の構築を実施できる。
⑥	主任介護支援専門員としての役割を実践するにあたり、現状を振り返って自らの学習課題の設定を実施できる。				自然災害が発生した際の対応について、基本的な考え方や方法について説明できる。
⑦	「自らの実践」と「指導・支援」の視点の違いについて説明できる。				

申込時に記入するのは1段目のこの欄のみ。4段階で自己評価。

記入例

申込時評価記入欄

受講直後評価

実践評価(研修終了から3か月後)

申込書式8-2

自己評価表 2

*この自己評価表は、申込時においては受講希望者の修得目標点検と、講師が申込時評価の集計結果から受講希望者の理解度を点検し、より充実した研修内容とするために提出していただくものです。**全項目の申込時評価(薄黄色の欄)を記入**してください。
 *申込時は**氏名を記入**し、**受講番号欄は空白のまま**でご提出ください。
 *全項目の申込時評価を記入した後、**コピーを取り、コピーをホチキス止めして提出**してください。
 *この自己評価表は、受講決定後は受講中と受講3か月後に使用しますので、**原本はお手元に保管**してください。

氏名

評価は自己評価とし、4段階評価で各項目ごとに該当する番号を記入してください。
 【選択肢 4.できる 3.おおむねできる 2.ほとんどできない 1.全くできない】

	6	7	8	9				
項目	地域援助技術	評価	ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実現	評価	対人援助者監督指導	評価	個別事例を通じた介護支援専門員に対する指導・支援の展開	評価
①	地域づくりの意義と手法及び地域課題を把握するための情報の入手・活用する方法について説明できる。		医療職をはじめとした多職種との連携・協働の仕組みづくりの重要性について説明できる。		対人援助者監督指導の機能(管理、教育、支援、評価)を理解し、実践のための知識・技術を修得し実施できる。		介護支援専門員が自ら問題解決できるような指導を実施できる。	
②	地域に関する統計データ等の情報を活用し、根拠に基づいた地域課題について説明できる。		多職種協働において関わりが強い他法他施策(障害者総合支援法、生活困窮者自立支援法等)の概要について説明できる。		介護支援専門員に対して対人援助者監督指導を行う際の効果と留意点について説明できる。		事業所内や地域の介護支援専門員への人材育成の実施支援及び指導を実施できる。	
③	地域援助技術を展開していくうえで、基本的な考え方及び方法、留意点について説明できる。		他法他施策を活用する際の関係機関等との連携・協働にあつての留意点について説明できる。		スーパーバイザーとしての主任介護支援専門員の心構えや視点を持った介護支援専門員への関わり方について説明できる。		事例検討・事例研究における指導・支援の実践的な展開方法(会議の設定と準備、介護支援専門員との関係構築、傾聴、承認、指導・支援の具体的な展開及びまとめと振り返り)を実施できる。	
④	地域課題の把握・解決に向けた取り組み策を考え、そのことについて説明できる。		医療職との協働の留意点、在宅医療を担う機関の把握と連携の意義や課題について説明できる。		個人対人援助者監督(個人スーパービジョン)と集団対人援助者監督指導(グループスーパービジョン)を実施できる。		個々の事例について、指導・支援における関わり方(コーチング、ティーチング等)の使い分けと留意点について説明できる。	
⑤	事例検討や個別事例に関する地域ケア会議等を通じて明らかになった地域課題の整理を実施できる。		地域ケア会議等の場の活用や日常的な実践の中での多職種協働の具体的な進め方について説明できる。		事例に基づいて、対人援助者監督指導の具体的なポイントについて説明できる。		事業者を越えた地域活動に積極的に参加し、その成果を活用して自らのケアマネジメントを実施できる。	
⑥	地域課題の解決に向けた関係者によるネットワークの機能や構築方法について説明できる。		行政との連携・協働の留意点について説明できる。				地域包括ケア実現のために、地域全体の課題を把握し、解決に向けた取り組みを実施できる。	
⑦	地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)に関する介護支援専門員に対する指導・支援を実施できる。		日常的な実践における医療職をはじめとした多職種協働に関する介護支援専門員への指導・支援を実施できる。				ネットワークづくり、社会資源の創出のために主任介護支援専門員としての役割を実施できる。	